

# 私たちの研究は実社会で活かされます。

カール・ルーマー

Traffic Studies should be More Practical.

## K. RUMAR

**太田** 今日は大きく分けて2つのことをお伺いしたいと思います。まずひとつは心理学者として現在興味を持たれていることについて、もうひとつはあなたの研究所についてです。

私の話で恐縮ですが、私が最初に興味を持ったのは人間の感覚とか知覚なんです。それで知覚特性について実験なんかをしていたのですが、だんだんフィールドでの人間の知覚特性を調べてみたくなった。

クレベルスベルグ氏の本にあなたの研究が引用されていますが、あなたの関心も実際の人間とその知覚特性に向けられていますよね。

**ルーマー** ええ。私もあなたと似たような思いをしましたよ。私はとても遅く心理学を始めました。私の教授は主に運動知覚の基礎的研究をしていたのですが、私はそこから更に応用心理学をやりたいと思うようになったのです。最初の研究は夜間運転中の視認性です。クレベルスベルグ氏の本にのっているリサーチのほとんどが道路標識についてですが、これが2番目の研究になりました。夜間運転などの知覚の研究をもう少し進めたのが、この道路標識の研究でした。

今は主にインフォメーション・テクノロジーをわけてあげています。なかでも人間がどのようにインフォメーション・テクノロジーを活用していくか、という基本的な問題に一番興味がありますね。

**太田** 具体的にいうと、どのようなことなんですか。

**ルーマー** ドライバーは運転しながら、様々な問題

を解決していくのか、それともただ目に入ってくるものを知覚内容として捉えていくだけなのか、という問題です。私の考えでは、ドライバーは問題を解決していくのではなく、知覚で捉えているだけだと思いますね。例えば歩いている人が自転車に乗ったとしますね。それはただスピードが早くなっただけで、その人の知覚が変わるわけじゃない。同じように車の運転でも、とにかく運転中は素早く反応しな

ければならない。気付いたと同時に判断し実行する。それに分析も必要です。ここでインフォメーション・テクノロジーは人間の問題解決能力を高めるために何ができるか。人間の知覚を向上させることはたいへん難しいですからね。それが問題になってくるわけです。**太田** そういった研究はあなたの研究所で？

**ルーマー** 研究所がやっていることもまさしく応用心理学ですね。このスウェーデン道路交通研究所の主な役割は、大学の研究とそれを実際に活用する産業界や行政、個人などのギャップをうめることにあります。**太田** 大学の研究を実社会に適用させるための機関というわけですね。



スウェーデン王立道路交通研究所副所長。1969年、ウプサラ大学卒業。当初より人間・車・道路との相互関係に注目、この分野で150に及ぶ論文を執筆。1976年、学生生活を離れ、現研究所に。当学会のISIRTのキー・パーソン、第2回ラウンド・テーブル組織委員長を務めた。

**ルーマー** ええ。だからインフォメーション・テクノロジーだけでなく、様々な研究を進めています。というのも我々は契約で仕事をしているのです。ですから産業界や行政機関などあらゆる所からいろいろな問題を解説してほしい、と依頼されるわけです。

**太田** 行政機関からの依頼だと、政府というか、ス

インタビューー

### 太田 博雄

本誌編集委員。東北工業  
大学工学部助教授。専門  
は交通心理学。特に、運  
転行動と知覚についての  
研究に取り組んでいる。



ウェーデンが抱える問題が、そのまま仕事になると  
いうことですね。

**ルーマー** そうなんです。今一番大きな課題は、なん  
とかスウェーデンもヨーロッパ市場に入っていき  
ないか、ということです。

**太田** EC統合がなされますものね。

**ルーマー** スウェーデンはその市場の外側にいるん  
ですよ。このままだとちょっとまずい。通行税も支  
払わなくちゃならないし、共同市場の中を自由に移  
動することもできない。だから今、ヨーロッパ市場  
参入の申請を行っているところです。

**太田** しかしそうすると、ヨーロッパ市場の全体に  
共通する規則に変更する必要があるのでは？

**ルーマー** 膨大な量の規則改定が必要ですね。飲酒  
運転の規制から、スピード規制、重量規制、車の長  
さの規制……。事前に調査しなければいけないこと  
がかなりあります。

**太田** 統合までもうあまりありませんから、たいへ  
んですね。長期的に取り組んでらっしゃる課題はな  
んですか。

**ルーマー** やはり環境問題と安全性の問題、この2  
点ですね。

**太田** 安全性の問題というと、冬期対策なんかも？

**ルーマー** 冬期対策と夜間対策、それにもっと難し  
いのが死傷者数を減らすことです。あとスピード規  
制の問題。私たちは統計なんかから、事故発生率と  
スピードの間には相関関係があることを知っていま  
すが、ドライバーはそうは思っていませんからね。

**太田** それは日本でも同じですよ。

**ルーマー** そうでしょう、そうでしょう(笑)。

**太田** しかし、研究したことをすぐに使ってもらえ  
るというのは、いいですね。

**ルーマー** ええ、本当に。大学で何かをまとめても  
誰も研究結果を実際に役立てようとしてくれない  
(笑)。確かに、どの問題に取り組むかを決められない  
という不都合はあります。依頼者、お客さま次第で  
すから。けれども、実際に利用することを前提に研

究するというのは、とても合理的でしょう？

**太田** これからどんなプロジェクトを計画されている  
のですか。

**ルーマー** 私個人としては、夜間交通におけるイン  
フォメーション・テクノロジーの研究です。ドライ  
バーモデルを使って、環境と人と……。

**太田** 人・車・環境。

**ルーマー** そのとおりです！ それから研究所が取  
り組みたいプロジェクトは、予測の研究です。数学  
を用いていろいろなモデルケースをつくる。そして  
シミュレーションを行い、様々なケースをみて、何  
が起こるかを研究し、予測を立てるための方法学を  
確立したいのです。

**太田** いかがでしょう、私たちと共同研究するとい  
う可能性は？

**ルーマー** 何ヶ国かとすでに共同研究を行っていま  
すが、日本の研究は進んでいるし、安全性の高さも  
スウェーデンとほぼ同じレベルにある。多分日本も  
スウェーデンも世界の安全な国の5本の指に入るで  
しょう。私たちには共通しているものがたくさんあ  
ると思いますよ。シミュレーターに興味がおありな  
ら、こういうのはどうでしょう。そちらでは実態を  
調査し、こちらではシミュレーターを使ってやっ  
てみる、そしてその違いを比べてみる、というの  
は？

**太田** おもしろそうですね。近い将来共同研究が実  
現して、その結果を役立てることができたらすばら  
しいだろうと思います。今日はいろいろと興味深い  
お話をありがとうございました。

インタビュー後記

（施（がわいい愛意味でなこ 樂ど富の  
1 壘れ国たすれ深きおと研し、士来今  
9 慮つー ーるたく、話も究ん精山日回  
9 さつと日研。、個をあ領で力やは  
1 れあい本究。こ時人うり域おらに日連家  
年 るうは者よ間的か、が非れ日をの族  
7 日費本かながくもた常た本訪猛をの  
月 本辞当らくつ大このにのれ暑連  
23 のににい自つ大このにのれ暑連  
日 自、美た然の変と貴近 夏るのれ  
実 然失しだをを興が重い をな、中